

アークフラッシュ施工された老人施設 7年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> **アークフラッシュNEWS をダウンロードによりご覧頂きます**

<< 医療現場特集 >>

抗生物質の効かない「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌」(MRSA)に体内まで侵される感染について、米疾病対策センター (CDC)などが初の調査結果をまとめ、17日付の米医師会雑誌に発表した。2005年の患者は全米で9万4360人、死者は1万8650人に上ると推計しており、別の専門家は同誌で「推計が正しければ、死者はエイズより多い」と指摘している。MRSAは、皮膚に感染する例が多いが、血液や肺など体内に感染が及んで重症化することがある。調査は米国内の9地域で04~05年に実施。

体内にMRSAが侵入した患者は8987人で、このうち1598人が死亡していた。9地域の人口は全米の約5.6%だが、患者が多い年齢層や人種などの比率も考慮し、全米の患者数などを推計したという

経済産業省が所管する産業技術総合研究所の特許生物寄託センター (茨城県つくば市)が、内規に違反して18件の病原体を受け入れていたことが17日分かった。感染防止設備が十分でないにもかかわらず、非常勤職員に生存確認試験などもさせていた。同センターは、微生物に関する特許の出願者から微生物そのものの寄託を受け、確かに微生物が存在することの証明書を交付する機関。経産省などによると、同センターは70年に特許庁の指定機関になった。しかし、十分な感染防止設備がなく、原則として危険性の低い「レベル2a」以下の病原体しか受け入れない内規を定めた。ところが、00年までにより危険性の高い「レベル2b」以上の病原体18件を受け入れていた。さらに、非常勤の女性職員らにこれらの病原体の培養や生存確認試験などの作業をさせていた。女性らには危険な菌だとは知らせておらず、特別な防備もさせていなかった。18件中3件の細胞株は当初、さらに危険性の高い「レベル3」の病原体だとされたが、その後の調査でレベル1相当の別の細菌だと分かった。産業技術総合研究所の一村信吾理事は「レベル3相当の疑いがあった菌を、きちんと扱わなかった瑕疵(かし)があった。関係者の処分も検討したい」と話している

害肝炎問題で、製薬会社が2002年に厚生労働省に報告した症例一覧表に記載された患者の氏名などを把握していた可能性があることについて、同省は17日、「企業が一部の姓名を把握していることを国は知っていたものと考えられる」とし、当時から国がこの事実を認識していたことを認めた。民主党の厚生労働部門会議で、議員の質問に答えた。一覧表は血液製剤「フィブリノゲン」を投与されC型肝炎などを発症した418人分

で、三菱ウェルファーマ(現田辺三菱製薬)から02年8月に提出された。匿名で、投与年月日や症状などが記されている。先月、薬害肝炎大阪訴訟の裁判の過程で、原告の女性がこの一覧表にある情報の当事者の1人であることを同社が確認したことで、原告・弁護団から、「企業側が一覧表の患者を特定していながら感染原因を告知せず、患者を放置した」と批判の声が上がっていた。

長崎県は16日、同県壱岐市芦辺町の松嶋病院(松嶋喬院長)の職員12人が肺結核に集団感染し、うち3人の発病が確認されたと発表した。県内で今年、肺結核の集団感染が確認されたのは3度目。

台湾のニュースサイト「中国台湾網」などが伝えたところによると、台湾南部でデング熱が流行。台南市政府の最新の調査では、2007年10月13日までに市内で511人の感染者が確認されたほか、隣接する高雄市でも2つの区で集団感染が発生しており、感染の広がりは過去最大規模。高雄市では来週、スポーツ競技大会が予定されており、選手団の感染を防ぐため競技会場と選手村周辺地域を警戒重点区域に指定した。市職員のほか、軍も動員し、デング熱ウイルスを媒介する蚊の撲滅作戦を展開する方針だ

宮崎市保健所は11日、市内の老人介護保健施設で入所者と職員計19人が感染性の胃腸炎にかかったとみられると発表した。いずれも症状は軽く回復に向かっている。保健所によると、9日に職員らが下痢や嘔吐(おうと)を訴えて、11日までに入所者16人(66~94歳)と職員3人(26~50歳)の計19人に症状が出た。施設の入所者64人は同じ給食を取っているが、症状を訴えているのは一部のため、食中毒の可能性は小さい。風呂や空気を介して何らかのウイルスや菌が感染したものとみて、検便検査をしている。

長崎市は9日、同市田手原町の精神科病院「広中病院」(広中郁朗院長)の入院患者18人が結核に感染したと発表した。うち10人に発熱やせきなどの症状があり、4人は同市内の別の結核専門病院に入院しているが、全員が回復に向かっており、感染拡大の恐れはないという。同市によると、感染したのは50~80代の男女。4月下旬に60代の女性患者が体調不良を訴え、8月下旬に症状が悪化したため別の病院で検査を受け、肺結核と診断された。病院から届け出を受けた市が9月以降、入院患者と職員計299人の健康診断を実施し、患者の感染が相次ぎ分かったとい

*** 発行責任者 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.com

過去のアークフラッシュNEWSはホームページよりご覧になれます。